

②ランキング法を活用した研修

《飲酒運転事例》

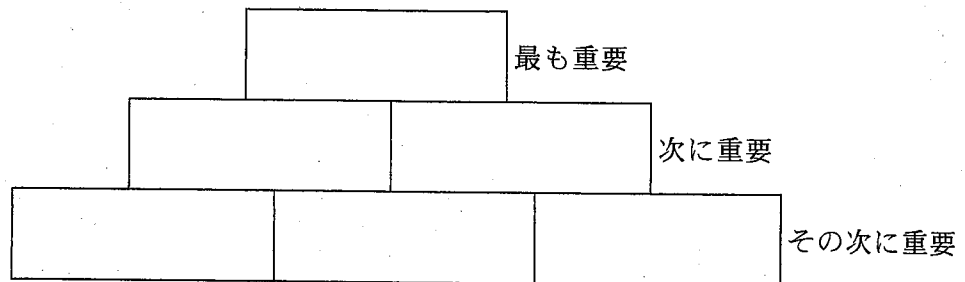
A教諭は、地域団体の総会及び引き続き開催された懇親会に、同僚のB教諭と参加した。午後6時頃から懇親会が始まり、8時には閉会したが、クラスの保護者に誘われ、二次会にも参加した。二次会の居酒屋では、翌日の午前1時頃まで飲酒した。

とても気分がよくなり、懇親会に参加したが飲酒しなかった同僚B教諭を誘って、少し離れた場所にあるカラオケに向かった。そこでも、ビールとカクテルを飲み、カラオケを出たのは翌日の午前2時になっていた。酔いつぶれたA教諭に「車で自宅まで送っていくよ。」と言ったが、A教諭は運転代行車を呼ぶからと断った。それでも、なかなか運転代行者を呼ぼうとしないので、A教諭を自分の車に乗せ、A教諭の車のある駐車場まで移動した。そこで、運転代行業者に電話をしたが到着までかなり時間がかかるということだったので、車の中で待つように伝え、B教諭は帰宅した。

A教諭は、車の中で休んでいたが、お腹もすいていたので、おにぎりでも買おうと、すぐ近くのコンビニに車で向かった。

ところが、コンビニの入り口の所で歩道に乗り上げる物損事故を起こし、到着した警察官により、飲酒運転で検挙された。

- 1 事例の中のA、B教諭の問題点を付箋に書き出す。(各自6枚)
- 2 書き出した付箋から最も重要なこと(1枚)、次に重要なこと(2枚)、その次に重要なこと(3枚)を選んで下のように山型に貼り付ける。



- 3 事例に潜む問題点について、ランキングの結果をもとに小グループで話し合う。
※意見の重なりや最も重要なことを中心に
- 4 話し合った内容を発表する。
一緒にいた同僚も含め、その時どうすれば良かったのかについてもふれる。
- 5 学校でどのようなことに取り組んでいけば、A教諭の飲酒運転を未然に防ぐことができたのか考える。
- 6 あなたは、この事例から、飲酒運転について日頃どのようなことを心掛けていこうと思うのか、その決意を書く。